

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 459

事務事業名	河川改良単独事業
-------	----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	河川公園課		
課長名	浦山 弘幸	内線	426
担当者名	杉本 久幸	内線	435

基本目標		安全・安心なまち
政策	030101	災害に強いまちづくり
施策		防災対策の推進
関連施策	050303	公園・河川の整備

会計	1	一般
款	8	土木費
項	3	河川費
目	1	河川改良費
事業コード	030200	

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	準用河川、普通河川		
意図 対象をどのような状態にしたいか	本市が管理している河川の改良及び改修を行なうことにより、流水断面の確保、並びに施設の保全に努め、地域の災害対策として市民の生命・財産を保護する。又、川特有の環境を保全し、流水路の確保及び水辺の遊びやすさ等を目的とした河川施設の改修を行い、川とふれあうことのできる良好な川づくりを推進する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	大村市が管理する河川で、通水断面の確保により、洪水による災害を防止することを目的とし、施設の小規模な改良・改修及び河川環境の保全を行う。 全体改修整備延長L=2,950m		
事業期間	年度 ~ 平成	年度	実施方法 直営

成果指標名	小規模河川の治水安全度=整備率			算定式等 整備率=改修済み河川延長/要整備河川延長 (250m) (2,950m)
着手前現状値	平成 24 年度	単位 %	8	
完了後計画値	平成 年度		100	

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額							
	項目別進捗率							
実施設計	実績・計画額					5,000		
	項目別進捗率							
用地・補償	実績・計画額	1,440						
	項目別進捗率							
建設工事	実績・計画額	64,937					10,000	725,000
	項目別進捗率	8.96%	8.96%	8.96%	8.96%	8.96%	10.34%	
事務費等	実績・計画額							
	項目別進捗率							
合計	実績・計画額	66,377	0	0	0	5,000	10,000	725,000
	項目別進捗率	9.16%	9.16%	9.16%	9.16%	9.16%	9.85%	11.22%

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	6,384	0	0	0	0	5,000	10,000	725,000
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	6,384					5,000	10,000	725,000
② 人件費(千円)	576	0	0	0	事業内容	事業内容	事業内容	B/C
職員人数(人)	0.07				玖島川調査設計	玖島川改修工事		
時間外勤務(時間)	10							
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	6,960	0	0	0				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 <small>昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)</small>	一括法による大村市準用河川管理施設等の構造の技術的基準を定める条例を策定し、平成25年度から施行している。
事業が抱える問題・課題等	

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	河川施設の改善及び保全を行うもので、特に家屋等に近接し、流水による被害が発生、若しくは見込まれ、また、河川環境の保全が必要な河川について改修を行う。						
有効性	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	本市には現在、19本の準用河川と67本の普通河川があるが、その大半の河川は完全に整備された河川ではない。大雨の度に岩石・土砂が洗い出され流水を阻害し、田畑及び家屋に被害を被っている。また、本数も多く計画的な整備が必要である。						
効率性	【施策成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	地域住民の生命・財産を守るため必要不可欠な事業であるが、本数も多く緊急性の高い箇所から年次計画により実施する。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし	削減の余地あり			該当なし	
	他の現場等で発生した自然石を再利用するなどコスト削減に努め、さらに公共工事コスト削減に取り組む。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし	見直しの余地あり				該当なし
	河川改修事業は治水を目的とするものであり、河川管理者の責務である為、見直しの余地はない。						

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 <small>今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)</small>	依然厳しい財政状況を考慮し、最低限の維持補修をもって機能維持を図り、単独の改修工事は平成30年度へ先送りとする。
効果 <small>事業の改善・改革によって期待される効果は何か</small>	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。